



桑原薬師堂から、かんなみ仏の里美術館を望む

「令和」時代に入り 平和・平穏無事そして繁栄を国民みなが希望しています。と同時に世界平和はこのまま続くだろうか？と、一抹の不安もよぎります。

人生 100 年時代というけれどニッポン国はそれに耐え、幸せな国でいられるだろうか？いろいろ考える改元 1 か月でした。

以下は開業半世紀を迎えたある顧問先の式典に際してのメッセージです。

企業の永続すること、それ自体感謝とおかげさまを改めて感じました。

50 周年記念誠にありがとうございます。

なんと多くの皆さまに、またたくさんのお客様先に支えられ今があると改めて感じるどころです。

とりわけ当社で働いてくれたご縁ある多くの方々あってこそと、感謝に耐えません。

さて新たな出発を「令和」とともにスタートいたしました。

## 「1年生はいつも1年生」

まず心したいのは原点。初心に立ち返り創業の精神をかみしめたいと思います。「ここはいつも一年生」あの精神です。

採算が合うとか合わないとか、交通費にもならないとか・・・何も考えず、ただお客様の喜ぶ笑顔に接するのがご褒美でした。

飛んで行ったあの時を思い出すことと存じます。そんなご縁から先輩がつくってくれたたくさんのお客様。時代がどう変わろうが、人間の根っこの心は変わらないことと確信します。

もし変わったとすればサービスするこちらの心かも知れません。

私たちは無限のちからを宿しています。まだまだ余力があります。年齢も関係ありません。次世代につなげましょう。引き続き「喜びのタネまき」で社会に貢献しましょう。

## 景気後退期の予兆の前に経営者がなすべきこと(3)

有限会社関経営 関 健太郎

### 「業務のスリム化編」

この5月1日、新元号「令和」となり、気持ちを新たにこれからの人生の目標や企業経営における目標、心がけをたてられた方も多いのではないのでしょうか。

この稿がスタートしたのが、今年の2月でしたが、その頃から協議が開かれた米中貿易交渉もなかなか決着の様子を見せず、ついに米国は中国からの一部輸入品に25%の関税を課税する手続きをはじめたとニュースで伝えられたところで、予断を許さない状況が続いています。

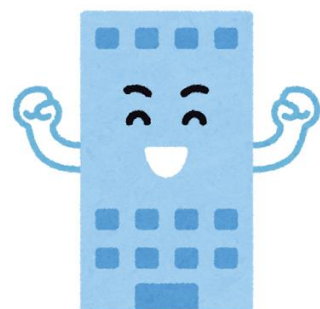
さて、前回のこの稿では「景気後退期の予兆の前に経営者がなすべきこと」をテーマに【業務のスリム化】について、皆さんとご一緒に考えてきました。今回は「景気後退期の予兆の前に経営者がなすべきこと」をテーマに【財務のスリム化】について、皆さんとご一緒に考えていきたいと思います。

前回お話をしました【業務のスリム化】や次回お話をする予定の【人材の育成】といったものは、経営者が決心をした時が旬の時期と言えます。しかし、【財務のスリム化】というのは、その時の経済環境や自社の経営状況なども強く影響してくる要因となるため、旬の時期がとても限定的にならざるを得ないケースが非常に多いと言えます。そのような意味で、今この時期にお話しすることはとてもタイミングの良い時期に機会を頂いたのではないかと考えています。また、財務のスリム化を実行し、健全な財務の会社にするということは、後継者不足や不在といった問題に直面している中堅・中小企業の経営者にとって、若い世代に後を継ぎたいと思わせるような企業体を構築することにも繋がり、後継者育成と並んでとても重要な仕事と言えます。

さて「財務」となると、細かい勘定科目と数字の羅列されていて、見ているだけでも疲れる厄介な資料というイメージを持たれる方もいらっしゃると思います。また、年に一度しか決算資料を見ないという経営者の方もいるかもしれません。しかし、経営者、そして役員クラスの方々が「常日頃から自社の計数に対してもつ関心度合い＝自社の経営への責任感の強さ」と言っても過言ではないのです。

ここで最初に、「企業が利益を出す活動」とはどういうことなのかを考えてみたいと思います。このことは企業の規模や業種を問わず共通しており、次のような流れが利益を生み出す原理・原則と言えます。

①資産（アセット）を取得するための資金を調達し、②その資産を売上に変えて、③売上を利益に変える。という基本的な流れの中で、今回は②の「売上に貢献する資産」に焦点を当てて、お話を進めていきたいと思います。



【財務のスリム化】とは実行する時期も非常に重要ですが、この基本の流れを念頭においておけば、何から着手したらよいのかということが非常にクリアになってきます。

つまり、これは「自社が商売を行う上で、どのような資産が必要なのか？」といったとてもシンプルな命題になってくるのです。在庫、機器、車両運搬具、建物、パソコン等IT機器であれ何であれ、資産は会社に

売上をもたらすためにあるということは皆さんも認識していることでしょう。

その中で、売上の現状維持を前提に経営の効率を高めていくには、売上計上に貢献する資産は取得し、そうでない資産は切捨てるという考え方がとても重要になってきます。シンプルでありきたりな考え方なのですが、私がお付き合いのあるクライアントの決算書を拝見すると、なかなか徹底できていないなというのが実感です。例えば、多くの会社において影響力の高い資産は売掛金です。売掛金や受取手形は自社にとっては顧客に対する貸付金に似たようなものですが、顧客と支払い条件の交渉を行い、売上の回収期間を短くすることで資産の圧縮に繋がっていきます。あるクライアントの決算書を見て、そのことを指摘すると、「そのお客は大手だから・・・」とか「昔からの取引条件だから・・・」というような返答が多いのですが、実際に顧客と支払い条件の短縮化について交渉をしてみるとすんなりと受け入れられたというケースが多々あります。また、在庫や仕掛品といった流動資産についても、自社の月商と比較して適正な在庫量なのかといったように、ひとつひとつ見直す必要があります。まずは、手の付けやすい流動資産から見直しを進め、その後に固定資産に手を付けるのがよいでしょう。



繰り返しになりますが、この作業で念頭において頂きたいのは「その資産が自社にとって売上をもたらすものなのか」という判断基準です。しかしながら、固定資産に含まれる資産の中には、取得した経緯の中で、特殊な事情によって取得したものや自社の歴史の中でとても思い入れのある資産といったものが含まれているケースが多いのも事実です。



一般的には、そのようなものに対してはどうしても判断が鈍ってしまう傾向にあります。その場合、外部の知見を活用したほうがよりの確な判断が下せる可能性が非常に高いです。私の場合、そういったクライアントの方にはお付き合いのある税理士事務所に相談することを強く勧めています。自社の属する業界の平均値や好事例など豊富なデータを保有している専門家に相談することで、よりの確な【財務のスリム化・健全化】を進めることが可能になってくるのです。

いずれにしても、景気後退の兆しがより鮮明になってきた状況において「売上に貢献する資産とそうでない資産を冷静に見極め、取捨選択していく」という先手を打つ必要に多くの経営者が迫られているのです。

～次回は8月号です～

## さわやか土曜塾

## 人生・家庭・職場の羅針盤

今回のさわやか土曜塾

学習格言「**動機と目的と方法と誠を悉くす。**」

この格言は道徳実行の結果を良好にするための条件を述べたものです。

**さわやか土曜塾** は、宇久田会計事務所主催の公開セミナーです。どなたでもご参加いただけます。皆様のご参加をお待ちしております。

日時：2019年6月8日(土) 10:00～11:30

場所：辻堂市民図書館 2階会議室(藤沢市辻堂 2-15-8)

会費：500円

詳細は、志村賢一・智江まで



## みんなの防災

こんにちは、そろそろ梅雨の時期です。大雨、洪水、土砂崩れなど水に関わる自然災害が発生しやすい季節になります。地震同様注意をして下さい。防災士の志村です。先月は原稿の投稿が出来ませんでした。その間にも九州地方では、大きな地震と火山活動と南海トラフに近い場所

で不穏な動きが起きています。こちらも注意して下さい。今回は前回の続きです。

大地震発生時の、持ち出し品の例を示します。

生活用品： 衣服(下着、上着、靴下など)、タオル、マスク、軍手、雨具、ビニール袋、ティッシュペーパー、ウェットティッシュ、生理用品、携帯トイレ等

その他： 携帯ラジオ、携帯電話、充電器、懐中電灯、電池、眼鏡、大切な思い出の品

2回に分けて例示した物は一例です。持ち出しに必要な物は各人で違いがあります。よく検討してご用意下さい。持ち出し品として大きい物や運びにくいものは、「逃げる時は置いていく備蓄品」として用意しておきましょう。

その他に置いていく備蓄品としては、最低1人1日3ℓの飲料水3日分(南海トラフ巨大地震や首都直下巨大地震では1週間分以上)、缶詰やレトルト食品、インスタント食品、卓上コンロとガスボンベ、鍋ややかん、バケツやポリ容器、毛布や防寒着、洗面用具やトイレ用ペーパー、非常用トイレ、ラップフィルム、使い捨てカイロ、ビニール袋、新聞紙、ガムテープ、笛、ロープ、スコップやバール等の工具があれば安心です。ありがとうございました。

\*\*\* \*\*

### ソフトバンクグループ(孫正義社長)利益1兆円超

1兆円の利益はスゴイ。1万円札でどうだろう？ 6畳間いっぱい？ この利益大半は「含み益」らしい。つまり確定利益ではなく評価利益、持ち株や関連会社、M&Aでの株式の含み益らしい。現預金で残った利益ではないのだ。株式が下がったらどうだろう？ 今度は評価損がたくさん出て赤字になるかも知れない。黒字決算、砂上の楼閣、こころもとない見せかけ利益の感じがしないでもない。

\*\*\* \*\*



## 表紙写真説明(桑原薬師堂から、かんなみ仏の里美術館を望む)

函南町桑原地区には長源寺境内に薬師堂があり平安時代の木造薬師如来像をはじめとする24体の仏像群が、里人の厚い信仰心によって守られてきました。

廃仏毀釈の時代の流れが明治初期にありましたが、里人がひた隠し保護していたそうです。昭和から平成にかけて3躯が国指定重要文化財(木造阿弥陀如来及び両脇侍像)に指定、16躯が県指定有形文化財に指定されました。桑原地区は仏像群を函南町に寄付、町では貴重な文化財を保存承継すべく慶派仏師実慶作の仏像を展示するかんなみ仏の里美術館を運営しています。(GW10連休帰省の際に立ち寄り表紙撮影。C.S.)



発行・編集 宇久田進治税理士事務所/株経営センターグロウ

〒251-0042 藤沢市辻堂新町1-1-2 クロスポイント湘南6F

TEL 0466 (36) 0627

FAX 0466 (33) 4892

URL : <http://www.ukuta.net/>

\*\* 編集部では皆様に喜んでいただける紙面にしたいと思っております \*\*

お読みになったご感想、お読みになりたい記事等のご意見をお聞かせくだされば幸いです。

(e-mail : k-shimura@ukuta.net 又は上記 FAX で)